

東山の森だより

【第 15号】

発行：なごや東山の
森づくりの会
発行者：滝川正子
編集：広報班
発行月：2011年10月
(年2回発行)

緑豊かな街づくりへ向けて

なごや東山の森づくりの会 中西 偶夫

【私たちは生きている—それは呼吸すること—呼吸する空気中の酸素を作ったのは植物である。その酸素でオゾン層もできた。紫外線から生物を守る環境を作ることにしたのも植物である。私たちは食事する。米もパンも植物である。魚も肉も卵も植物がなくてはありえない。すべての動物を養っているのが植物である。】 柳田友邦著「植物は偉い！」より

人はその自然界の営みの中で恵みを受け生きていることを改めて思い知らされる一文である。



太白溪湿地 夏

地球上の生き物で最も重要な働きをしており存在感のあるのは植物であるが、人間はその植物の生きる場を奪い続けてきた。その結果として地球上のあちらこちらで砂漠化が進み、温暖化が進んで、異常気象が常態化し局地的な豪雨や猛暑、旱魃が発生し、生物の中には絶滅あるいは絶滅の危機に晒されているものが多い。

山に植物が繁茂し、そこに降った雨が蓄えられ地中に浸透し、地中の水脈を歩いていずれまた地表のどこかで湧出し、それが集まってせせらぎとなり川となって周辺を潤しながら海へ注ぐ。山に植物があるから川の水は枯れることなく、滔々と流れており、周辺を潤し、緑豊かな地表を形成している。そこではいろいろな生命が生まれ、人間もその一員として多くの恵みを受けている。

私たち森づくりの会がフィールドとするなごや東山の森もかつてはここを水源とした幾つかの水路があり、ため池がつくられ、その下では田や畑が営まれ、キツネや野うさぎもみられた。この森を守り育てていく事で、この豊かな自然の恵みを未来へ送り届けることがわれわれ森づくりの会の成すべきことのようにおもわれる。

この森を発信源として、コンクリートジャングルが拡大傾向にある名古屋の街を、緑豊かな潤いのある街づくりにつなげていくことが出来ないのか。行政を動かし、企業を動かし、街の中に緑があるのではなく、緑の中に街があり、市民が心豊かに生活でき、子どもたちがのびのびと走り回り心身ともに逞しく育ってくれるような街造りはできないのか。(海外のどこかの国ではそんな街づくりをしているところも有るように伝えられている。)



ゴマダラチョウ

2004年(平成16年)2月に「なごや東山の森づくりの会」が発足した当時は410haといわれていた「なごや東山の森」は現在400haといわれるようになってきている。わずか7年余でこの有様では将来が思いやられる。「なごや東山の森づくりの会」としてはフィールドである森の手入れをしておればよいということではなく、強力なリーダーシップを発揮し、同じ思いをしている市民を動かし、行政を動かすべく行動を起こす時にきているのではないだろうか。将来へ禍根を残すことのないように。

= 多様な生物のいのち輝く森や野原での体験は、こどもの想像力と創造力を育てる =

【 東山の森の生物たち 】

▣ウスバキトンボ

東野 有剛(安城農林高校 2年)

今回は、初夏から秋にかけて水田や空き地、草原などに多数見られるトンボについて説明したいと思います。里山の家の付近でこの時期、ゆっくり群れで飛んでいるオレンジ色のトンボはウスバキトンボです。特徴はアカネトンボの様に腹部が赤くないことや、草原で休むときは水平にとまることはなく必ずぶら下がるようにしてとまる事などです。このトンボはなんと外国から海を渡って日本にやってくるのです。このようなとんぼは季節風や台風などに乗り中国北部や東南アジアから来る種類もありますが毎年飛来数に変動があります。しかし、このウスバキトンボは毎年確実に飛来します。しかしこの辺の気候では越冬はできません。なんのために飛来するのかは、まだ分かっていません。たくさんいますが不思議と発見にみちたトンボなのです。



▣葛から木を守る

稲田 恵子

公園を散歩した帰り道、ふと見上げた大木に縄状に絡みついた葛、小枝が折れそうなのに為す術もなく月日が流れたある日、助けたい思いが通じたかのようにその木の真下で公園の職員と出会う。いきさつを話し、葛を切る許しを得る。大木の周囲にはヒサカキが群生しており木の先端にも葛がネットを張った様に覆い、枯葉や木くずが積み重なり、地面に光を通さない状態だ。木の幹程に生育している無数の葛をのこぎり鎌で切っていく。非常に繁殖力の強い木で翌年には何事もなかった様に新芽が出る。葛を切ること5年。ようやく芽は殆ど出なくなり、光を浴びた木の根元には花わらびが顔を出し、梅檀(センダン)や栲(トネリコ)の花が咲く。近くには葛に巻かれて朽ち果てた大木もある。そうならないように見守っていかれたらと思う。



フユノハナワラビ

【 子どもを育む 】

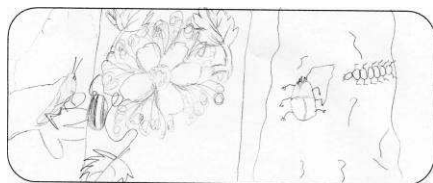
▣森の小さな冒険家たち

伊藤 昌恵

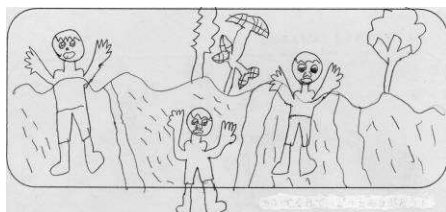
最近、バーチャルリアリティのゲームに夢中になる子どもたちの日常に、私は少なからず？を抱いていました。しかし森づくり隊の子どもたちと出会ってからは、その？は変わりつつあります。それはゲームをしている時につかっている五感のはたらきと、森づくりや冒険ハイキングでつかっている五感のはたらきかたにちがいがあることを強く感じたからです。自然を相手に思いきり仲間と遊び、学ぼうとする子どもたちの五感は生き生きしていました。また子どもたちの全身からは、汗が流れ落ち、好奇心、探求心、冒険心への情熱があふれていました。まるで小さな冒険家です。バーチャルとリアリティのちがいを、こんなに明解に伝えてくれる、子ども森づくり隊に出会ったことは、私の喜びです。子どもたちが体と心で実感する冒険ハイキングで育まれた力は、きっと生きる力のもとになることを希っています。



▣子どもたちの声



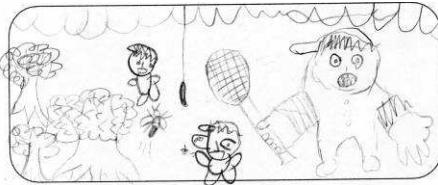
友だちができた 小6男



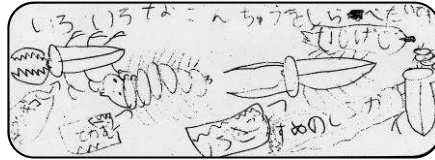
人間じごくであそんだ所がたのしかった 小6男



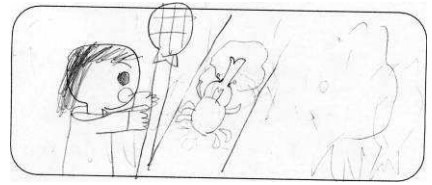
ささ舟を作って流した 中1男



いろいろな虫を見た。都会だととても明るいのに、今日はとても暗かった 小5女



よるのりのなかはまっくらだった 小1男



くらくこわい場所で、いろいろなことをおしえてくれた。こうもりのちょうおんぱを聞いた 小4女

ふつうのカブトムシはメスが一匹いた。コクワガタが一匹の計二匹のカブトムシを見ることができた。スズメバチはいなかったが、ケムシやゲジゲジ、ゴキブリもいた。バッタやザリガニが田んぼにいた。コウモリがチュッチュッと鳴いていたり、コッとえものをさがす音で鳴いたりしていた。とにかく、名古屋にも自然があって、こんなにも身近に自然があり、虫がたくさんいることにとってもおどろいた 小5女

載らなかった子のごめんね、次がんばってね!

【森で汗をかこう】

□ 定例、班活動の紹介(各班よりの投稿)

★平成 23 年度総会

平成 23 年 5 月 21 日(土) 18:00~20:30 東山コミュニティセンター

総会出席者数 出席者 54 名 委任状 81 名 合計 135 名 会員数 160 名

議事 第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案、第 4 号議案、第 5 号議案、第 6 議案共に議決されました。

★定例活動

鬼頭 保

毎月第 1 日曜日 10:00~15:00(7~9 月は 9:00~12:00)

活動エリア 偶数月「くらしの森」

奇数月「ふれあいの森・いのちの森・うるおいの森」

5 回実施(9 月は台風で中止) 参加延人数 206 名

東山の森はあのニューヨークのセントラルパークより広い森です。草木の成長は想像以上に早く、くらしの森ひとつをとっても、人力による月一回の活動では決して満足な結果が得られていない場面もありましたが、そこは積極的に参加して下さる会員企業の多くの若手の力をはじめ、平和公園里山班、東山南部里山班などの班活動のお陰で乗り切ってきた感があります。また今年度上期は雨天や猛暑など過酷な環境下での活動が大半でしたが、それにも関わらず多数のご参加には感謝を申し上げます。



★班活動

① 平和公園里山班

久保 健太郎

毎月第 3 日曜日 活動エリア「くらしの森」

名古屋に引っ越してきて約 10 ヶ月、東山の森デビューを果たして約 6 ヶ月、名古屋生活=里山となってきました。私が東山の森に興味を持ったきっかけは、炭焼き体験の情報を知り、こんな街中で炭焼き体験が出来る場所があることに驚きつつ、どんな場所かと散歩に行ったのがきっかけでした。実際に行ってみると、そこには池、田んぼ、森があり、幼いころには魚採り、カブトムシ、クワガタ虫採りに明け暮れていた私にとっては、のんびりと散歩するだけではもったいない場所となりました。その後、遊びに行く内に「東山森づくりの会」の存在を知り、貴重な都会のオアシスを守っていくお手伝いが出来ればと参加させていただくようになりました。最近では猫ヶ洞池で魚釣りを始めたり、より一層、東山の森周辺の自然に遊んでいただいています。



② 東山公園南部里山班

滝田 久憲

毎月第4土曜日 活動エリア「いのち森・うるおいの森」

東山南部里山班が活動しているフィールドの一つに東山公園の“いのちの森”の中にある苗場の湿地とその奥の森があります。この苗場の奥の森では、立ち枯れをした樹木や森を暗くしている常緑樹などの伐採を行っています。ところで、最近、この森の景観が変わってきました。石像前の中央広場に至る谷筋の道は、これまでその両側にコバノミチバツツジやガマズミなどの灌木やタカノツメの低木などが点在する程度でしたから、ゆったりと歩くことができました。ところが、2年前にカシノナガキクイムシ対策として、たくさんのコナラやアベマキの木が伐採されて以降、林床が明るくなり、アカメガシワが進出してきました。フロンティア・プラントであるこの樹木は後発組ですが、何時の間にか先輩の樹木を追い越して、優先種になろうとしています。これまで、南部里山班の作業は除伐や植樹などが中心でしたが、これからは自然景観保全を配慮した森づくりの必要性を感じています。



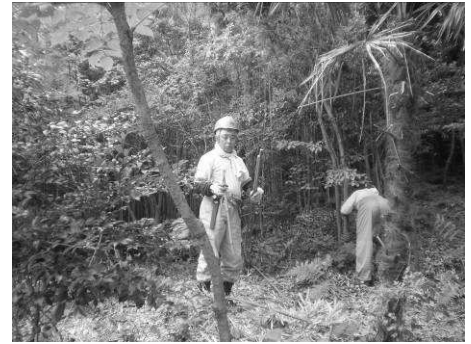
アカメガシワのジャングル

③ 竹くらぶ

犬飼 猛夫

毎月第3木曜日 活動エリア「くらしの森」

4年前東山1万歩コースを散策中に「なごや東山の森づくりの会」のチラシを見て趣旨に賛同し「竹くらぶ」に加入しました。今迄樹木の間伐を行ってきたが、伐採は、樹木も竹も全く同じで竹の方が簡単である。小さい竹は倒す反対側から、太い竹は倒す側に三角の受け口をつけ、その反対側の少し上を追い口としてノコギリを入れる。自分の決めた方向に倒れると爽快である。女性が中心の班ですが楽しく活動をしています。12月にはミニ門松を作り玄関先に飾るのが今年の閉めになります。



④ 子ども東山の森づくり隊

坂野 静雄

年4回(5、8、11翌年2月) 活動エリア「くらしの森」「いのちの森」「うるおいの森」

なごや環境大学「共育講座」の前半2回参加人数180名例年と同じように「ハイキング」を実施しました。今年度は子どもたちが自由に活動できる時間を設けました。子どもたちは自由な発想で活動を楽しんでいました。また、班分けは年間を通して前もって決めることとし、兄弟、なかの良い友達が固まることなく、新しい友達を作る場として行きます。今後も子どもたちが普段、体験しない内容を考えていきたい。

今年度後半は11月5日(土)、24年2月11日(土)の2回実施します。



倒木を太鼓代わりに

⑤ 炭焼班

永井 通雄

随時 活動エリア「くらしの森の炭焼広場」

山仕事のたのしみ

そもそも「炭焼き」に関心を持ったのはいつからのことだろうか？もともとが三河の山里で生まれ育ち、小学生のころは近所の山ではまだ炭焼きが行われているところもあった。しかし小学生の子供が炭焼きに関心があるわけもなく、何十年も経て当時見たり聞いたりして刷り込まれた原体験がいつの間にかにじみ出てきたのかも知れない。現役を終えた後、「東山の森の活動」に参加させてもらっているのも「自然保護とか環境問題」いった意識もさることながら、森の中の作業がなんとも心地よい気分を味わうことが出来るからであり、これも山里育ちの刷り込みのなせる業かも、炭焼き班は昨年春以降の窯造りから数回の試し焼きを経て、その後思いがけないトラブルで中断、対策に悪戦苦闘している。小生、作業への参加率も芳しくなく、知恵もないまま労力の提供に終始しているわけですが、その労力も加齢とともに怪しくなるとまことに心もとない次第です。しかしながら里山での作業の心地よさは何



減煙装置テスト中

物にも変えがたいもので、今後も「東山の森」のお仲間として長いお付き合いをお願いしたものです。

⑥ **田んぼ班** **長瀬 陽子**
随時 活動エリア「くらしの森の田んぼ」

6月4日に田植えをした幼い苗は、牛糞と米糠を撒いた田んぼから養分を吸収し、夏の陽光と、せせらぎから取り込まれる水を得て茎数を増やし元気に育っています。8月6日の「草取り・虫の観察」では多くの虫たちが、子供達の目を輝かせました。猛暑の中で参加者60名が雑草取りに汗を流しました。泥に足をとられながらも生命の息づく田んぼの世界を体感しました。10月末の稲刈りが終わるとハザに干された稲束がくらしの森の里山に収穫の秋を知らせます。



⑦ **畑班** **星出 尚仁**
毎月第2・第4日曜日 活動エリア「くらしの森の畑」

なごや森づくりは最高!“今日のジャガイモ 本当に甘いよね?”“うん、これ畑で取ったばかりのジャガイモだよ”東山で、畑班の活動を通して、このような幸せを感じることができるのは本当に幸せです。鍬の使い方、一輪車で荷物など運んだことがなかった息子が、一生懸命汗をかきながら、お手伝いをしている。この活動に参画していなければできない体験です環境問題についても、生息している動植物の変化から、今の状況を肌で感じることができる。全てはこの活動が教えてくれるもの。普通の生活ではできない感動をいつもさせてもらっております。



⑧ **藤巻班** **佐藤 利和**
毎月第2土曜日 いのちの森東部藤巻町地内

藤巻班は2回の試行作業を経て、2011年度5月の総会で承認されて正式に発足いたしました。藤巻町周辺の森は落葉樹の代表的なナラの大木があり、その下に3mほどに育った照葉樹(常緑広葉樹)が群生しています。かつては咲き乱れていたといわれたツツジの群生も照葉樹の片隅に迫いやられています。主な作業は外の土地へと侵食した若竹や境界間際の竹の伐採や、竹林近くに隠れていた桜の大木を守るため周囲の竹の伐採と根を踏まないように簡易な柵作りを行っています。場所は藤巻町内にある名古屋高速道路の上部周辺で作業しています。竹藪の周辺は少しずつ明るく開けてきました。笹、オカメ蔦や葛に覆われていた広場の片付けも進んでいます。藤巻町住民の協力を得ながら明るい森へと手を掛けて住民と共生できる森づくりをしています。



⑨ **調査活動班** **佐藤 利行**
随時 活動エリア 東山の森全域

2009年より環境省の「モニタリングサイト1000」里地調査(<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>)でカエル類の調査を市民調査員として東山公園南部で実施するようになりました。東山公園南部にはいくつかの貴重な湿地が残されており、両生類を中心に生き物を観察しています。両生類は、その名が示すように生息・成長するのに陸と水が必要です。それ故、人為的開発で生息地が急激に狭められ、人知れず絶滅の危機に瀕しているのが現状です。定点観察・記録することにより、その様子を知ることができました。最近うれいことに、その個体数の増加を確認しています。これは、草刈などの手入れのためなのでしょう。しかし、公園南部はオートバイや自転車の走行など生き物にとって問題を抱えています。それらの改善に向けて、息の長い、地道な保全活動を続けたいと思っています。



ニホンアカガエルのカエル合戦

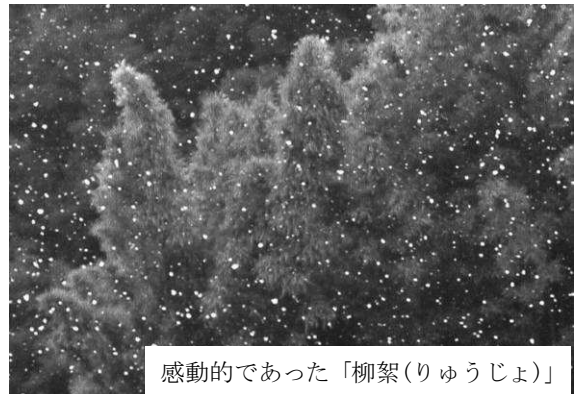
*ニホンアカガエルは名古屋市絶滅危惧IB類

*** 各班の集合場所、時間などの詳細は出来る限りホームページ「活動予定」で案内しています。皆さまの積極的な参加をお待ちしています。**

【 森の表情 】

岩田 達明

前住地の岐阜県土岐市は、市域の多くを山林が占め中小の河川が流れる自然豊かな地方都市でした。しかし、森の緑が多種多様であることを知り、四季の移ろいに感動はしましたが、名古屋に勤務するサラリーマン生活で「自然」と深く関わることはありませんでした。名古屋に転居する時、緑が色濃く残る東山の地を選択したのも潜在的に自然志向の意識が働いていたことと思います。間なしに「平和公園自然観察会」感動的だった「柳絮(りゅうじょ=ヤナギの種子)」へのお誘いを受け、そして「東山の森づくりの会」にも入会しました。里山の中を歩きながら植物の成長や昆虫類の生態を間近に見て、先人たちの造詣深い話を聞くことは驚きと感動の連続でした。こうした見聞は 自然系の写真撮影を趣味としていた私にとっておおいにプラスとなりました。そんな折、三藤 弘氏の「都会に残る自然 平和公園の四季」と題した写真展を鑑賞する機会に恵まれました。そこには、季節、天候、時間により様々に表情を変える、素晴らしい森の姿が活写されていました。東山の森=里山の魅力は計り知れぬほど広く、深いと痛感した写真展でした。「感動的な風景」に少しでも多く出会いたい。脳裏に記憶させ、映像に残したい。心をときめかせながら散策を続けています。



感動的であった「柳絮(りゅうじょ)」

【 森づくりを生かした支援・交流 】

- ・4/2(土) 「ユニー里山プログラム」(郷土種子保全協議会)
- ・5/22(日) 7/10(日) 8/14(日) 「サツマイモ講座」(東山総合公園、千種生涯学習センター)
- ・6/4(土) 7/9(土) 8/6(土) 「田んぼ講座」(東山総合公園、千種生涯学習センター)
- ・8/5(金) エコロジーワンデイツアー(名古屋市リサイクル推進センター・なごや環境大学)
- ・8/19(金) 「NHK子どもサマースクール2011」(なごや環境大学・NHK名古屋協働)
- ・8/28(土) 夏のドングリククラブ-そうめん流し-(主催:蓮教寺)

・企業の森づくり活動(4、8月 TG社 31名、6月 RD社 70名、8月 FX社 6名)

★ホームページを見てください!!

⇒ 当会の活動を紹介するホームページです。

定例活動・班活動の様子と結果の報告、子ども森づくり隊の案内、各種イベントの紹介、森の中で観察された生きものの紹介などなど内容豊富です。ぜひご覧ください。



自然を豊かにし、
人生を豊かにする
森づくり活動に
参加しよう!

なごや東山の森づくりの会

検索

《会員数：9月末日現在 174名 個人 169名 企業 5社》

《会員募集》

人と自然の いのち輝く森

「東山の森づくり」に参加しませんか!!

年会費：2,000円 (企業：10,000円/1口以上)

入会申込・問合せ：〔連絡幹事〕鬼頭 保

Tel/Fax: 052-751-9510

e-mail: kito022445@mediacat.ne.jp

編集後記

投稿歓迎⇒ 水谷泰通 Tel:052-782-5036

e-mail : y-mizutani@r7.dion.ne.jp

原稿を寄せて戴く多くの会員の皆さんが入会の動機を「自然との触れ合い」「自然の中での労働の楽しさ」を挙げておられます。便利になりすぎた都市に棲むことの危うさを本能的に感じバランスを取ろうとする自然の摂理なのでしょうか。